

結婚をした同胞に至るまで、幅を大胆にひろげ、名簿を掌握、整理し、初級一年生対象、編入生対象者の家庭環境と各々の家庭で提起されているいろんな事情を掌握し、対象者ごとに活動方法を絶え間なく改善していくことである。

——本部と支部、学校などでは、内外反動たちが民族教育を弾圧しようとして悪辣に策動している中で、朝鮮学校運営の自立的な土台を構築する事業に、より大きな力を入れることである。

学校教育会の理事隊列を専任活動家とともに、活動力のある若い世代の熱誠同胞たちで補強し、「学校を愛する一口運動」をはじめとする学校を支援する事業を全同胞的な運動へと拡大することである。

朝鮮高級学校学生に対する高校無償化の早急なる実現のための運動を、引き続き力強く展開し、教育補助金を停止しようとする一部自治体の不当性をあばき、在日朝鮮人排他と民族教育に対する嚴重な差別施策を阻止するための運動を、活動家と各界各層の同胞を網羅した全同胞的な大衆運動へと強力に展開し、民族教育の諸般の権利を確固として守り拡充していくことである。

榊原洋子さんの2ヵ国語の物語
 日本語と朝鮮語で語る
北朝鮮で暮らした42年半 (少女時代編)
 (CD付 韓国語・朝鮮語の学習にも最適)

ある縁で守る会のお手伝いをし
て以来、榊原さんと出会いました。
どこにでもいる普通のお母さんで
した。

これから先、だれにもつらく悲しい
思いをさせたくない、そんな思いで
この冊子を編集しました。

かるめぎ編集部、大澤幸治。

(1部 980 円、送料 100 円)



総連中央に対する反対派の意見書

朝鮮総連が内外ともに孤立し、揺れています。
日本に住みながら日本人拉致に手を染めたり、
拉致工作の工作員養成などをめざす学校を「民
族教育」と強弁し、日本の公金を要求していま
す。すべて北朝鮮の金正日軍事独裁政権の出先
機関として、悪事を重ねています。「守る会」の

二〇一一年度の活動方針では、朝鮮総連に対し、
反省と政策転換を求めるとし、それができなけれ
ば「解散を迫る」と決議しました。

朝鮮総連の内部からも、中央の横暴に対する意
見書があいついでいます。

参考資料として、それを転載紹介します。

(「光射せ!」編集部)

《資料》

総連中央会館売却事態に対する我々の見解

1、経緯について

「勝利と団結の大会」・総連二一全大会から僅か五日後の五
月三十一日に総連中央会館が売却されていたという、六月十
二日付け日本のメディアによる報道が、総連関係者に与えた
衝撃は想像を超えるものであった。この事態を憂い、疑問を
持った多くの人々の中で、我々もまた即刻総連中央に連絡を
とったが、しかるべき応答は得られなかった。その後総連中
央常任委員会から発表される一連の声明や談話をして各種の

報告に耳を傾け、更に総連に加えられる安倍政権側の弾圧に
抗議する大会にも参加しながら事態の推移を注視してきた。
その過程でこの問題の重要さに照らし、尚且つ明らかにす
べき点があることを確認し、我々の見解を「総連中央会館の
売買事態に対する我々の意見」(七月九日付)にまとめ、総
連中央に提出すると共に面談を要請した。

——「意見」の要点は?

●この度の中央会館売却問題は、これを進めてきた許宗萬貴
任副議長が詐欺師らに籠絡されたのではないか? 仮に売

買がそのまま成り立ったならば、総連事業の拠点であり象徴でもある中央会館が元公安調査庁長官の所有物となり、我々はその賃借人という立場になることではないか。

●六二七億円と売買交渉過程で詐取された四億八四〇〇万円を含めた莫大な借金をつくり、そのため中央会館が奪われる原因をつくったのも主に責任副議長の責任ではないのか。

●安倍政権の総連組織に対する不当な弾圧に、正々堂々と論を張り正面切って闘うためにも、責任副議長はその任から離れ自粛するべきだ。

等というものであった。

——これに対して総連中央から七月二十日に至り、朴応星一名のみの条件で呼び出しを受けたので、会館内で議長及び南副議長と面談を行った。

その席上における総連中央側の発言要旨は次のようなものであった。

●「今回の面談は説得のためではなく、警告を与えるためのものである。」

●「提起してきた意見は中央に対する挑戦であり、非組織的策動である。」

●「このたび総連中央会館をめぐる措置は徹底して集体的に行なったものであり、正しい対応である。」そして既に中央から発表されている内容と同じ発言が繰り返され、

●最後に「中央の警告にも拘らず、引き続きこのような行動

り方が今日、組織内部では沈黙を強いているばかりか、組織全体を萎縮させ無気力を招いている。また強権的な「異論」の排除は、発言者そのものを組織から離脱させ、表面的には団結が謳われるが、結果として自ら組織の足元を崩している。

近年、総連組織の衰退が内部からも叫ばれて久しい。この面で中央指導部の方針や指導にたいする「意見」は多い。端的に言うと同僚の実情や切実な要求にこたえずに、一方的な決定と上からの押し付け指導に固執する中央に対する反発である。総連中央の意に沿わぬ意見は一切認めないという狭小で硬直した組織のあり方が、今日の総連基盤の脆弱さをもたらし、事業全般で危機的状況を招いているとの指摘である。意見に対しては度量を持って幅広く虚心坦懐に聞き、真摯に対応することが、組織の活発で創造性のある活動を呼び起こす。

我々は今でこそ一線を退いたが、総連組織の一員として長年働き、一定期間はそれぞれの部門で責任者として総連事業に深く関わった体験を持っている。その過程で中央上層部の指示・指導にも数多く接したが、省みるべき事柄、汲み取るべき教訓は多々あると感じている。だからこそ総連の発展を願い、より良い組織を次世代に継承するためにも意見を言う権利があり、又それが我々に負わされた責務だとも考える。

内部の意見に真摯に対応することは、組織を強化することであつても、その逆はない。

——現在、総連に対する日本政府側の暴圧が続くという異

に出るならば組織的な措置を取る。」と締め括った。

結局、こちらの疑問点や意見に対しては具体的説明も加えられず、面談は一方的で終わった。

そして先般八月三、四日にかけての県本部委員長・団体事業体責任者会議において、中央指導部は我々に対して「不純な敵対分子」「非組織的妄動」と烙印を押し、「これに強く打撃を加えること」に加えて「総連組織と同僚居住地において孤立させ、足の置き場所さえ無くせ」との指示が出された。

その後、指示に従って意見提出者が居住地で築いてきた今までの人間関係を遮断し、そこから排除しようとする陰湿な動きさえ出てきた。

2、我々の見解

(1)、総連中央執行部は我々の「意見」に対して、理不尽なレッテルを貼り頭ごなしに排斥するのではなく、真摯な対応を求める。

——我々は当初から自らの身分を明らかにし、予め内容を要約した文書を提出した上で、面談を求めた。しかし面談はあたかも査問の場のような結果に終わったが、中央指導部のこのような対応こそ内部の意見さえも抑圧排除する暴挙であると言わざるを得ない。遺憾ながらこれまでにも、中央は本来ならば真摯に取り上げるべき内部からの様々な意見を、同様な態度で「蹴した事例は数多くある。このような中央指導部のあ

常な状況下にあることを考慮し、あくまで組織内部での意見提出という方法をとった。

日本の保守反動勢力による総連弾圧、在日同胞に対する抑圧・権利侵害は昨日今日に始まったものではない。総連はそのつど幅広い同胞の団結の力で、闘争を通して試練を乗り越えてきた歴史を持っている。

中央指導部は今回も「中央を中心に一心団結」を求めているが、当然のことである。しかし組織の強固な団結には、中央指導部に対する全組織からの全幅的な信頼が基底になければならず、それを欠いたとき団結は形骸化する。

今日の実情はどうか。過去に失策を繰り返しながらも、無謬性に固執する中央指導部の権威主義的で独善的な態度が、却って組織内部からの信頼を失い、力を結集できずに今日の弱体化を招いたと見る人は多い。この度の中央会館売却問題は偶然飛び出したものではなく、これまでに積み重ねられた失策の結実点の一つとして浮上したと見るが、事態の処理過程で図らずも露出した中央指導部の一連の措置、組織不在のやり方は組織内部の信頼を大きく損ねている。組織内の信頼関係は上部からの一方的な強制だけで築かれるのではない。中央指導部もまた全組織から信頼を受けられるよう誠実な努力が求められるのは言うまでもない。それによって真の「一心団結」がもたらされる。

また組織の力は成員一人ひとりが事態を正確に認識し、目

標をしっかりと把握した上で自覚的に取り組むことで生まれる。このプロセスを踏まない戦いはスローガン倒れに終わる。

我々は現政権による狂乱的な暴圧下にあるからこそ、組織的団結をより強固にし、有効な闘争を進めるためにも、この問題を明らかにし全組織的に取り組める対応策をとることが、緊急且つ重要な意義を持つと考え、敢えてこの時期に「意見」を提起した。

(2)、中央会館売却など最近の一連の事態について、中央指導部の責任ある説明を求める。

(一) 総連中央会館売却の事態に立ち至った経緯と内容を明らかにし、責任の所在と対応策を明確にすべきだ。

——中央会館は総連の象徴であり、活動の拠点である。と同時に同胞の長年にわたる血と汗の結晶体であり、後代に引き継ぐべき貴重な財産でもある。これを売却するという重大な問題が中央のごく一部の範囲で隠密裏に進められ、日本のメディアによって始めて明かされるという前代未聞の事態が生じた。

このような重要な問題はまずは中央委員会・県本部委員長会議など適切な機関会議で十分に論議し、また会館建設に参加した商人など衆知を集め、必要な措置をとることが優先されるべきだ。これとは逆に、いま中央執行部は疑問や意見を出したものを非難し排斥することに汲々とし、失策を糊塗するのに大慌てである。何よりも必要なことは小手先による拙劣な手法でなく、誰もが納得する形で全組織的に真つ当に

対応することであろう。

中央会館は現在どのような所有名義になっているかはさて置き、これの建設に当たって出捐した数多くの商人を含む全員のものである。中央は会館を本来の目的に沿って、適切に管理運用することを彼らから負託されているに過ぎず、中央指導部といえどもこれに違背するような恣意的な処分は許されるものではない。

——中央執行部は会館売却問題について、「すべて集体的に行なっており、中央のとった措置は全く正しい」と答えている。しかしこの一連の動きが二一全体大会では無論、その前後にもたれた中央委員会などでも一言半句触れることなく進められ、外部報道を通して初めて中央委員、大会代議員、参加者そして総連会員同胞が知るところとなったのである。このこと一つを見ても、現中央執行部がどれほど組織を軽視しているかが窺われるが、彼らを信ずることができずにどうして組織全体からの信頼を得ることができようか。またその後の事態の推移と対応を見ていると、中央執行部の言う「集体主義」とは一体何を指すのか実に理解し難い。

これに関する問題は既に五年前から始まっているというが、事件が表沙汰になってからも一切の疑問を封じ込め、何とか丸め込むのに躍起になっている中央の姿と、混乱した状況を見る限り「中央の取った措置はまったく正しい」と言えるか。土壇場でのドタバタ劇は全くの彌縫策に映る。

また「集体的に行なった」ということ自体は、決して責任回避の理由にはならない。結果によっては関与した範囲で責任を取らなければならず、中央は「集体主義」の言葉で責任問題を覆い隠すことはできない。

(二) 中央会館売却の直接の原因となった六二七億円の債務問題の全貌と、ここから生ずる責任を明らかにすることを求める。

総連中央の説明によると、「中央はRCCに対して六二七億円の債務が存在することを認めた」とのことである。そして報道によればこの「中央の債務」は朝銀の破綻によりRCCに引き取られたものだという。

——まず、巨額の債務が「中央」の債務か「総連全体」の債務か。どんな目的のため、中央の誰の責任において、どの範囲で、どのような手続きを経て生じたのか。これら全体の判断は正しかったのか、誤っていたのか。組織的な検証と総括は不可欠だ。

先の本部委員長会議で中央は六二七億円の債務内容を説明している。

そこでは総連中央の財政上の累積債務のほかに、安商宅氏など数人の商人の債務を中央が引き受けたこと、さらにまた朝銀関東の破綻と役員逮捕を免れるため、中央が一八七億円の債務の責任を取った等々の理由説明がされているが、辻褄合わせに聞こえる。

いずれにせよ会議に参加したのは、今後何らかの形で責任の一端を担っていくことになる幹部たちだが、この説明を聞いて釈然としたものは、どのくらい居たであろうか。

なお、この六二七億円とは別の債務返済のため、いままでに「朝日輸出入商社」「中央学院」をはじめ総連関係の施設が既に数多く、RCCによって競売などで処分されている。また未解決の問題もあり、この中には本来、これらの債務と直接には関係のない学校施設も担保として提供されているが、今後の推移が憂慮される。

——つぎに、この巨額の債務が朝銀の破綻により引き取られたものと言うが、朝銀「信用組合」からの巨額の借入はどうして可能だったのか。手続きなどは正常だったのか。そしてこの債務の存在が朝銀の破綻とどう関連しているのか。

在日同胞の経済生活において血液ともいえる役割を担った朝銀が破綻して既に一〇年になる。これにより同胞の受けた傷は計り知れない。この問題では朝銀関係者の責任は重く罪にも問われた。一方朝銀の破綻に関して日本当局は総連の関与を問題視した。そして新設組合の設立運営に当たっては、総連の関与ばかりか同胞による理事長就任さえも禁ぜられ、主体性は大きく損なわれた。現在、同胞信用組合の規模は縮小機能と役割は大幅に低下している。総連の傘下団体であった朝信協はいつの間にか解散され、かつて朝銀事業全般に強い「指導」力を発揮した総連中央は、奇妙なことに朝銀問題には

すっかり傍観者の立場をとり未だ公式の総括はしていない。
総連活動の柱の一つに同胞の生活権擁護を標榜している以上、この問題に蓋をして通り過ぎることはできない。

(3)、許宗萬責任副議長は、これらの問題に率先して総括を行い、責任の所在を明かにし、進退を含め応分の対応を取るよう求める。

責任副議長は総連組織内において、実質最高位の地位にあり強大な権限を持っている。現中央指導部の中では長年にわたって唯一人、すべての問題に直接関与し、またその立場で采配を揮ってきた指導幹部であることは、自他共に認める事実である。特に責任副議長は副議長の時期から財政部門を担当してきた。

財政は組織運営の根幹の一つである。これがいくら困難な状況下にあるといっても、特定の者の差配下で独断的に、しかも不明朗なまま処理されていけば、早晚財政は破綻し組織全体に歪みが生ずる。六二七億円をはじめ得体の知れぬ巨額の債務が朝銀の破綻に繋がり、中央会館の売却という事態を招いたのであれば、担当の任にあったものが責任をとるのは至極当然である。その際目的や動機が何であり、またその内容がどのようなものであったにしても、その結果に対して責任を負うことが一般の通念であり、総連でも同じだ。

——この度、我々の「意見」が中央によって「非組織的敵対行為」と烙印を押されたのは、総連中央即ち「責任副議長(4)、我々の「意見」に対する中央の回答は、総連事業に大きな関心とそれぞれに責任を持つ人々を対象に幅広く、行なわれることを求める。

一連の事態について組織的な総括を求めるのは、いうまでもなく今の状況を正確に把握し評価を行い、過ちをただし教訓を得るとともに衆知を集めてより良い対応策をとることにある。

——従って、例えば次のような場で行われない。

- 長年総連と労苦を共に歩んできた老幹部、
- 物心両面で支えてきた商工人、
- これからの組織を担っていく若い世代などの集まりを持つこと。

勿論、各級機関会議などを含むことはいうまでもない。
この過程で新たに体制が整えられ、具体的な措置がとられていくならば、事態の収拾だけに止まらず、大きな前進の契機にもなると考える。

我々の「意見」は少数の名で提起したものであるが、意見を同じくするものは多い。又この「意見」は個人的利害を反映させたものでもなく、ひたすら総連の強化発展を願っているものである。

以上

二〇〇七年 九月五日

鄭文策 (元 総連中央監査委員会 副委員長)

李範洛 (元 朝信協会長)

崔益佑 (元 総連中央経済局 副局長)

朴應星 (元 朝・日輸出入商社・社長)

『光射せ!』6号の訂正・お詫び

・54P(ページ)上段 5L(行)

東京都世田谷区上北沢3-35-3-102 → 3-35-3-101

- ・146P 下段 5L 『金日成同志略伝』 → 金日成同志略伝 (増補版)
- ・147P 上段 10L 一月十日にいった → 一月十日に行った
- ・148P 上段 15L 『?群』 → 『焰群』
- ・156P 下段 13L 作家たちに行っている → 作家たちに行っている
- ・158P 上段 4L その意を帯し → その意を体し
- ・158P 下段 19L 成惠琳 → 成惠琳
- ・161P 上段 7L 三大世襲 → 三代世襲

に対する挑戦に当たる」からだと言う。

総連組織では批判の自由が認められるばかりか、組織強化のために却って奨励されさえする。また総連において「個別幹部を絶対化する」ことは禁句であると習った。批判の対象は地位の如何を問わないし、責任副議長も例外ではありえない。批判によって事態が正常化するならば、建設的結果をもたらし本来の目的に合致する。我々の意見は「批判的である」かも知れぬが、「挑戦」といわれ「攻撃」を受ける筋合いは無い。

かつて、総連組織において金炳植事件なるものがあった。第一副議長として権勢を振り、彼に対して「意見」を出したり、反対した者は「宗派」と叩かれ、有無を言わず「排除」された。結果多くの人が総連から離れていき傷跡は長く残った。今またこれが現中央執行部によって繰り返されるのは愚の骨頂である。

——権限と責任は表裏の関係にあり、地位によってその大きさと重さもまた比例する。根幹を揺るがすような重大な失策には、それに相応する地位に在る者が応分の責任を取るのとはどんな組織でも同じだ。最高責任者は前任者には勿論、下部にも左右にも、さらには上部にも責任を転嫁できない。組織はこのようにして更なる発展の道を探る機会を得る。この意味で責任副議長は進んで事態の全容を明らかにすると共に、最高責任者として身の処し方をはっきりさせるよう求める。

第1報

趣旨書

朝鮮総聯の改革と民族統一・志向会

今こそ、私たちの手で総聯を改革しよう！

一人でも多くの同胞に読んでいただきたく、母国語ではなく日本語での表記としました。どうかご理解ください。

私たち「総聯の改革と民族統一・志向会」の有志一同は、在日同胞の健全な発展と祖国統一へのたぎるような想いを残したまま逝った二世同胞と先達たちの期待に背き、同胞運動を今日のような窮地に陥れた責任を痛感しつつ、心をこめて同胞の皆さんに呼びかけます。

鮮明にしておきます。

名は体を表わします。まず、私たちは心ある総聯のイルクン（編集部注・専従の活動家）たちと同胞の力を合わせ、総聯組織の改革・革新・民主化の実現を目指します。また、金正日軍事独裁政権と決別し、祖国の統一成就のため先頭に立つてたたかいます。

不名誉にも人々は、わが祖国を指して、「東洋の火薬庫」と呼んでいます。わが七千五〇〇万のはらからの意に反し、

「砲撃事件」の一報が入ったのでした。そして、このニュースはいつになく総聯のイルクンを動揺させています。

「オプチゴ・キョプチゴ（殴られた上にまた蹴られ）」といいますが、まさに、先の哨戒艦・天安号事件、そして、九月の三代目・金正恩の「お披露目」、その上、延坪島砲撃と続いたのだから、イルクンたちの閉塞感と動揺は想像に余りあるものです。

聞こえてくる話は、「いくら何でも今度ばかりは申し開き出さないよ」「いい加減にしてほしい」「また朝鮮籍が減っちゃう。学生数なんか増えるはずがないさ」「それ、民族教育は総聯の生命線。学生数減少に歯止めをとハッパを掛ける御仁が裏では大砲を撃つ。総聯を潰しているのは、当の將軍さまじゃないか」と、イルクンたちや商人がやるせない気持ちで酒席で吐きすてているといっています。

今の総聯の実態なるものは、まさに壊滅寸前だと言うほかありません。総聯は一九七〇年代、在日同胞六〇余万人中、その大半を組織化していました。しかし、今はどうでしょうか？ 四万前後の同胞しか残らない、眼を覆うばかりの実情であり、学生（生徒）数も八、〇〇〇名台に減少してしまいました。

「それでも、それでも」とのおもいで総聯を支持してきた、熱誠同胞までもが「もう総聯は終わった」「総聯は消滅するのでは」と危惧する現況です。

昨今の祖国の情勢は極度に緊張しています。

去る十一月二十三日、突如、北の砲弾が打ち込まれ、西海の延坪島が「火の海」にさらされました。そして、二人の韓国軍人と無辜なる民間人二人が死亡したほか、多くの負傷者をだす事件が起きました。

祖国の統一は、平和的な方法で成されるべきであり、再び民族流血の悲劇を繰り返してはならないと主張する私たちは、怒りと衝撃でこの報道にふれました。

しかるに、十一月二十四日の共和国の外務省談話を見ると、「我が革命武力は二十三日、西海の延坪島において我が方の領海に砲射撃を加えた敵の無謀な軍事的挑発に対し、断固たる自衛的措置をとった」と言い、続いて十二月六日の朝鮮中央通信は、「今年は、先軍朝鮮の不敗の威力を全世界に誇示した」とすごんで見せました。

共和国や総聯は今まで事あるごとにアメリカと、その傀儡の韓国は「大豆をアズキと言ひ換える輩だ」と言ってはばからなかったではありませんか。この言葉をそのままそっくり返したいと思うのは、決して私たちだけではありません。大方の同胞は、「やはり、北はこう出てきたか。もう救えない。まったく恥ずかしい」との言葉を吐露。強い怒りと抗議の声をあげています。

こともあろうに、二十三日は中央会館で「総聯本部、支部、団体、学校の責任イルクン会議」が開かれていて、そこへ

いま、この危機を救うには総聯組織を改革し、祖国の統一実現のため、多くの同胞が立ち上がるほありません。

金正日軍事独裁政権の圧政と人権蹂躪、「全世界の金日成主義化」イコール南の「赤化統一」の野望の延長線上に、この度の砲撃があるのです。人権は木の葉のように軽いもの。だからして砲丸での民間人の殺人などの天人共に許さざる蛮行をさらけ出してはばからないのです。

南では李明博政権の初動の甘さや、国防委員長長の辞任、いつものように民主党や民主労働党などの左派・親北勢力と、「一部マスコミ」の「北擁護論」なども出たりはしたが、国民の大方の世論は、北への果敢な報復を支持するものであり、「太陽政策」と「六・二五宣言」の見直しをせまるものだといえます。

南が、この事件は停戦協定をやぶるものであり、白昼堂々と韓国領に実弾を打ち込んだもので以前のテロや挑発とは、性格の異なる挑発・蛮行だとして糾弾するのは、至極、当然なことです。

語られているように、北の挑発が金正日の健康悪化からくるあせりと金正恩世襲作業の一環、そしてまた、アメリカを交渉に引き出すためのウラン濃縮等の新たな核開発の「誇示」であり、デノミ失敗と経済的破綻の打開を意図したものであるのでしょうか。

弱い犬ほどよく吠えるものです。これは、逆に金正日独裁世襲政権の抑圧下で、自由と人権を奪われている北の同胞を

救い出し、北の民主化と祖国の分断時代に終止符を打つ絶好の機会ではないでしょうか！

静かに考えます。総聯の民主化も心あるイルクンたちと、賢明で正義感あふれる同胞大衆が勝ち取るものであります。やはり、人々の真実の力が、歴史を動かす原動力であります。果たして、北に人民主権が存在するのでしょうか。今からでも遅くはありません。神のように崇めてきた金一族の本体（本質）は何なのか。総聯はいつの間に金一族の「忠実なる下山人」になりさがり、今は許宗萬の野望と「功名心遊び」の太鼓もちになってしまったのでしょうか。いまや一握りの総聯狂信者たち以外のイルクンたちは、何もかも全部見透かしています。

真理は一つです。噴火口にマグマが渦巻いています。私たちの主体的な力で突破口を切り開くではありませんか！

私たちは志一同は、数ヵ月間、討議と議論を重ねてきました。また、心あるイルクンや先輩・同胞を訪ね、総聯の将来について語りあってきました。かつて総聯の中核で働いたイルクンたちや、総聯を離れて良心のたたかいを展開している先輩たちや色んな会やサークルをたずね、知恵と力をいただきました。

私たちは近い将来、プログを立ち上げます。そして、広く「対話」を展開するつもりです。ですからここでは、総聯の民主化、破廉恥極まる現許宗萬執行部退陣のための闘いに絞ります。

当面の目標だけを提示します。

一、朝鮮総聯の現指導部、許宗萬執行部の即時退陣を要求する。

総聯中央に改革暫定委員会を設け、民主主義的（無記名投票）による各級代表を選出する。

二、綱領を全面改定する。現金正日独裁政権とは完全に決別し、将来出現するであろう北の民主的な政権、また南半部政権とも等距離を保つ。

三、民族教育をはじめ、在日の同胞文化の育成発展を促す。

四、民族的諸権利擁護につとめ、同胞に奉仕し愛される民族団体を構築する。

五、世界の自由・平和愛好人民との友好、とりわけ日本国民との友好親善につとめる。

○ 民族の志向と人権尊重民主主義の手法による平和的な民族の統合（統一）のために全力を傾注する。

私たちは、同胞との対話の中で、「在日には人材と知恵、そしてお金もある。間違ったのは、『大泥棒』にうまく編され不毛の争いに明け暮れたからだ。今や、『しがらみ』を断ち切り在日の明日を切り開くべきだ」との重い言葉でした。

本当のたたかは今からです。スクラムを組んで前進しましょう！

二〇一〇年 十二月十四日

朝鮮総聯の改革と民族統一・志向会（T M J）

第2報

二〇一一年二月九日

許宗萬を退陣させ、 本当の民族教育を取り戻そう！

朝鮮総聯の改革と民族統一・志向会

今、エジプトが熱く燃えている。独裁者・ムバラクの退陣を叫び毅然として立ち上がった数十万民衆の蜂起は、われわれを興奮させる。励みを受ける。

▼ムバラクの終わりは金正日の終わりだ

「ムバラク打倒！」「腐敗は許さん！」「ムバラクは終わった！」と叫ぶエジプトの民よ！独裁者の肖像画をたたき破り踏みつぶす百万市民の映像がカイロから飛び込んでくる。

ついにエジプトの民衆はムバラクの独裁・鉄拳政治に断を下した。独裁は人々から自由と人権を石ころのように踏みこむ。そして、大方の独裁者は、人民のこぼしと石のツブテで権力の座を追われ無残な死に方をする。ほとんどの独裁者は平安な死に方をしていない。

人民の手で処刑されるチャウセスクの映像を見ておののいた独裁者が、この度のカイロの人民蜂起を見て何を考えるのであろうか！

中東からの嵐は、次々と嵐を巻き起こし世界を揺り動かすであろう。だからして私たちの胸がおどる。

独裁者・ムバラクの終わりは金正日のジ・エンドになるであらうか？

チャウセスクもそうであったが、ムバラクと金独裁王朝との関係は、兄弟関係のような密着なものであった。一九七三年の中東戦争の時、朝鮮人民軍空軍は、ムバラクを助けた。その上カイロに戦争記念館まで建ててやった。

するとムバラクは、北にスカッドミサイルとその製造技術を与えた。そして、四回もピョンヤンを訪ね、独裁手法と「後継者論」を学び息子の後継まで企ててきた。

ナチ・ヒットラーもムッソリーニも、そしてスターリン、その他の独裁政権もみな人民と歴史によって打倒された。未来永劫する独裁政権はない。

▼許宗萬も金親子に無条件追隨する

腐敗のもとしめだ

「献金のはこび屋」の異名を持つ許宗萬は、金親子に見習い、在日同胞の財産を食いつぶした腐敗堕落分子・コンダール（編集部注：以下編注と略す…ヤクザ）である。史上稀に見る金正日独裁の現住所は、ムバラクがうらやまほどの私財蓄積と腐敗のオンパレードなのだから、許宗萬もそれを鏡にしたと言えはそれまでだが。

許宗萬の同胞財産の収奪と腐敗の深度は、「忠誠」の深度であり、彼はさしずめ「総連腐敗のもとしめ」である。

私たちはいつまで騙されるのであろうか？「敬愛する將軍さまのため」「祖国と民族のため」「同じ民族同士」という口車に乗せられるのであろうか。

静かに足を眺めてみよう。すると朝銀はなくなり、組織も学校もすっかりしぼんでしまっている。二百名近くいた支部の専任委員長はすでに一〇〇名を切ったではないか！多くの元活動家、愛国的な同胞、商人、元学校の先生たちは、「こんな筈ではなかったのに……」とため息だけをついている現状である。

私たちの思考がマインド・コントロールされてしまったのだろうか。非常識が常識になってしまっていないだろうか。この前の全体大会でも、中央議長は徐萬述議長であった。しかし、議長は外出も出来ないほどの重い病身の身体である。だのに議長だ。総連の七不思議のひとつであろう。

▼金正恩は首領様の子だという？

一年が過ぎると正月が巡ってくる。しょうりもなく「マルスム（編注…おことば）」や共同社説、新年の祝電が中央にやってくる。イルクンや同胞の多くは「マンナル（いつも）同じことを……」と吐きすて振り向きもしない。

しかし、昨年の秋以降、不思議な「現象」（白頭山の不可思議な自然現象のことではなく）が起きている。

昨年末、送年会の席である幹部に訊いてみた。「三代目の

したと言っていたが、息子だとすればうなずけるね」と笑ってその場は終わったという。

もちろん事実かどうかは分からないが、納得できる話ではある。

はつきりしていることは、わが国の封建王朝・宮廷内での権力闘争も顔負けする血で血を洗う「激闘」が進行しているということだ。昨年の四月と六月、中央党の組織指導部第一副部長、李チエガンと李ヨン Chol が連続して、謎めいた失脚・死亡をとげた。そのあと釜に座った朴チヨンスン（八二）がこの一月に死亡（高齢と持病のためだと言われている）するなど、想像を絶するようなドロドロした暗闘が進行していることになる。

ピョンヤンは、このような虚偽・陰謀・金だけがすべての腐敗社会であるから、上記のような情報がこぼれる可能性も否定出来ない話である。

▼將軍さまの指令—どんなことがあっても

「高校無償化」の金を獲れ！

昨年の初めから私たちは、「高校無償化」問題に振り回されてきた。「出す、出さない」「貰える、貰えない」の繰り返しであったともいえる。

総連の教育イルクンたちは、「学校は本当にお金のかかるところだ」と口をそろえる。学生たちが減り学父母や同胞の支

金正恩將軍さまをどう崇めるのかね。中央は本格的に取り組む気があるのかね」と。すると「まあ、今日はそんな話はよそう」とはぐらかされた。

ウリナラ（編注…わが国）と総連はツーカーの関係だから、いまや総連のメディアを動員し、それ講習会、大衆集会を通して「三代目」を高く崇めたてる事業が進んでいて当然なことなのに、実に「しずか」である。イルクンたちは首をかしげながら、お互いにヌンチ（編注…目くばせ）だけを見合わせている。

どうであろうか。中央、いや許宗萬は正式の声明ひとつ出していない。

ご周知のように、この問題は革命の根幹にかかわる最優先・重要問題である。総連だけがその例外ではない。だのに一部の人の間では「在日同胞が受け入れられない現状を勘案して戦術上ひかえているだけさ」と言ったりしているが、そうではない。ましてや許宗萬が北へ意見を出したからでもない。驚くかな、こんな話が中央の重要幹部の口から漏れたという。当の幹部の親友が絶対秘密だと口止めされて聞いた話だという。

「中央は今、なにも言えないんだよ。金正恩は実は首領さまの最後の隠し子なのさ。將軍さまとは兄弟だから幹部たちも反対できない。それで権力が二応維持されているんだってさ」と。

「南や日本では、首領さまに似させようとして整形手術まで

援がなくなると、学校の運営はできっこない。ウリハッキョ（編注…朝鮮学校）では、数十年前から先生の給料もまともに払えない状態が続いている。

そこへ「高校無償化」問題が出てきた。すると將軍さまの「賢明」な「マルスム」が出た。

「どんなことがあっても無償化を勝ち取れ！」、の指令が下達されたのだ。

すると中央は今さらのように「教育は総連の生命線」と強調し始め、総動員体制で、「差別反対」「ウリハッキョにも適用せよ！」の闘争を展開した。何時ものように、日本人を前面にたて要請運動を繰り広げた。

思いがけなく日本人拉致家族会や支援団体、そして世論の反対にあった。

それでも民主党政府は、教科書の内容改定と経理透明化を条件に、支給に踏み切ろうとした。これに対し中央は、「断固拒否、無条件適用」の方針を打ち出した。このような時の十一月二十三日、延坪島事件が起こった。すると日本政府は世論に圧された形で適用を当分停止した。

皮肉なことに二十三日は、中央会館で「総連中央、県本部、支部委員長、学校責任者」たちの会議でこの問題が討議されていた日であった。

中央の「無条件獲得」の強行方針は、現場のイルクンたちの反撃にあい、返答にたじたじだった。わが総連の会議は、

最初から結論ありきのもので、こんな会議は実に珍しいものであった。

その後、伝わるところによると、日本の各自治体から現に貰っている年間の支援・補助金の内、東京——一億一千万、大阪——一億九千万が一月末に凍結された。教育会と学父母たちは、「これなら朝校に金が出たとしても、元の本阿弥、いや逆に損をしたことになる」、「明日からは、あなたたちが学校を運営してくれ」と言い出したそうだ。

去る一月十七日、「無償化」適用手続き問題で東京朝校教育会が出していた意義申し立てに対し、二月四日、文科省は手続き停止を続行するとした。これを聞いたある学父母は、「これでいいのだ。將軍さまから送っていただこう。海外に四二億ドルも溜め込んでおられるのだから」と皮肉たっぷりに話したという。

この度の相撲界の八百長騒動で、こんな違反があれば公益法人の資格を取り消すといっているのが日本でもある。こうして見ると、例えば総連が大阪の白頭学園のように、第一学校の資格を取ってれば無条件に適用されていた筈である。何十年も前から、一部良心的な同胞たちが一条校にしようとの声をあげて来たにもかかわらず、中央がそれを退けてきた訳は何だったのか？

それは、自主的な民族教育の美名のもと「金日成主義・思想教育」が出来なくなるからであった。すると、「教育は総

その他一切の異なった価値を認めない、唯一絶対思想をもとに歪んだ教育の場」であったと、ある雑誌に書いている。

この恥かしい事実の前に、総連幹部や同胞教育者はどう応えることができるか。

一三年前の一九九八年十二月、東京朝鮮中高級学校・新校舎建設委員会は、総連中央常任委員会あてに要望書（編注：『光射せ！』六号に掲載）をだし、民族教育の強化、改善を強く訴えた。いつものようにそれは握りつぶされ、東京朝校の学父母はもちろん多くの同胞にはその事実すら知らされなかった。ところある人々が流した要望書はいわゆる「怪文書」の烙印を押され、やがて「消えて」いった。

読みなおすと一〇年もの昔、先達たちの良心と真実の叫びが迫ってきて胸のたかまりを抑えることができなかった。もし、この要望がたとえ半分でも生かされていたならば、民族教育の現状はこんなに深刻なものにはなっていないであろう。残念なことであり同時に責任を痛感するばかりである。

一筋の湧き水がやがて大河になるように、昨年、長野の初級学校の学父母と商人たちは、学校の自主運営、即総連の手から学校教育を地域同胞のものに取り戻す運動を果敢に展開した。にも拘わらず、この運動も中央の陰湿な破壊工作にあい成功させることは出来なかった。

しかし、この運動は、在日同胞に本当の民族教育を取り戻すための、今後のたたかいの方向を示唆する意義ある運動で

連の生命線」ではなく、正しくは「忠誠心教育が生命線」となる。

▼本当の民族教育を

在日同胞の手に取り戻そう！

子供たちには学ぶ権利があり、ウリハッキョに通っているだけで差別されるなら、それは許されないことである。

しかし問題の本質はそれだけにあるのではない。どのような教育がなされているのかの問題は重要な問題である。

中央もよく知っている筈だ。今のウリハッキョの教育を、在日同胞の真の民族教育だと自信をもって言い切れるのか。

一九六〇年代末から、総連が朝鮮労働党の唯一思想体系、領導体系なるものに組まれ、金親子を神と崇め、その忠実な「イルクン」を育成するための教育に編成した後というのは、民族教育は実質消えてしまったのだ。

学校に子供が来なくなったらそれはもう学校ではない。学生が急減し学校がドンドンと無くなる。ウリハッキョが同胞の支持を失った根本的な原因は、この間違ったイデオロギー教育にあった。

東京朝校を卒業した元という人は、ウリハッキョを「在日同胞のための純粋な思いから始まった民族教育、民族の言葉や歴史を学び、誇り高く生きていく理念はやがて簡単に覆された。そして、当時台頭しつつあった金日成を神と崇め、

あったといえる。

総連の活動家や会員の中には、まだまだ良心とバランスをもって思考し真実に生きようとする人たちが残っている。私たちは、何時でもスクラムを組むことが出来るということに熱く確信することができた。

もちろん「もう何もかも後の祭りだ。ウリハッキョの学生はすでに幹部らの子供たちだけで、一般同胞の子弟はいないんだから」との声もあり、学生数の減少は深刻な段階に來ている。許宗萬が笛を吹き太鼓を叩き、使い古された「大木も一〇〇回うてば倒れる」との「精神論」だけでは、学生の数を増やすことはできない。

この四月、また一校ほどの学生が減少するであろう。この責任は一体誰にあるのだろうか！

誤解しないでいただきたい。私たちは民族教育を決して否定するものではない。

上で紹介した東京朝校の要望書は、「一、民主主義民族教育の理念」の項で、その理念とは、一言で下記のように規定するのが望ましいと指摘し、続けて、「学生たちを民族主義意識と国際性、日本社会で立派に生きていける力を持ち、祖国の統一と民族の繁栄、同胞社会の発展のために献身する愛国愛族人材に育成する」と書いている。

そして唯一絶対思想注入の教育、現代歴史教育の誤りを痛烈に批判し、同胞のための本当の民族教育への改善策を具体

的に提示している。

もちろん私たちは、教育問題ましてや在日の民族教育の形成・振興が、そんなに容易いものではないことを百も承知している。

しかし、かつて在日同胞が一日の食事を二度に減らしてでも学校を建て子弟を教育してきたあの熱意が受け継がれ、方向性を正すならば民族教育を立派に再生させることできるものと確信する。

在日同胞の教育を金親子の「革命・野望の道具にしてはならない。まず、許宗萬体制（総連）から完全に独立した学校教育を始めることである。

地域代表はもちろん、広く教育学者、文化人、元教師、同胞有志等で構成する民族教育研究（振興）会を発足させ、教育理念の確立から内容、方法、一方で自主的な学校理事会を

二〇一一年三月八日

最高裁判判決が近づいている

第3報 「中央会館」を売り渡した 許宗萬責任副議長を糾弾する！

朝鮮総聯の改革と民族統一・志向会

同胞のみなさん！

まもなく、「総連中央会館売買事件」の最高裁判決の日が

こみ上げる怒を抑えることが出来なかったものです。

九月に入ると、総連会員と同胞の意思を代表して前中央幹部たちを先頭にした許宗萬責任副議長に対する抗議運動が起ります。また、同胞から激しい抗議の声が一斉にまき上がりました。

しかし中央は、このような質問と意見書には一切耳を傾けなかったのです。そればかりか、中央に直接抗議に出向いた人たちを罵倒し、例のごとく、「不純敵対分子」「非組織的妄動」とのレッテルを張り同胞社会から孤立させ、帰国した肉親を人質に脅迫・懐柔するなどの卑劣な行為を繰り返しました。

多くを語るまでもありません。責任副議長の今までの説明と釈明を信じる人も幹部もいません。誰が何のためにお金を集めたというのか？ どのような手法で金を作ったのか？ その金はどこへ流れて行ったのか？ 朝信の破綻と「整理回収機構」・RCCへ移った六二七億円の借金の原因が何なのか？

その元締めが責任副議長でありました。総連イルクン（編注・専従活動家）はもちろんのこと総連同胞の誰一人として、この事実を知らない人はいません。

ましてや、「中央会館売買事件」発覚後、私たちの脳裏に忌まわしいほどにインプットされたことは、事件に群がっていた輩共の面々とその正体でした。総連弾圧の先鋒である前

構成し、教員の発掘任命、保護者会の運営などに携わること提案したい。

数年前までは総連のイルクンたちの中では、「駄目だよ。総連の改革なんか出来っこない。親亀の金正日政権が転ばない以上子亀の総連はなんともならんさ」との「親亀子亀論」が支配的であった。

しかし今は違う。私たちは必ず総連を変えることが出来る。ある先輩から、「年賀状の中から、感動したものを君に転送する」と書いたレターをもらいました。その中の歌三編を紹介します。

世界より忌み嫌われし国に住む 罪なき民の行く末かなし

“先軍”で守は己の栄華のみ 荒む国土と飢えし民捨て

三代にわたる虚構の王朝に 食いづられし山河・民・夢

二〇一一年二月九日

やってきます。

しかし、その判決がどちらに転ぼうとも、許宗萬責任副議長の意に沿うようなものにはならないことでしょう。

この四年間というものは、思い出すだけでも呪わしく憤激にたえない日々でした。二〇〇七年の五月、それは皮肉にも総連第二十一全大会の直後のことでした。

私たちは日本のマスコミを通して「中央会館売買事件」を知ります。そして、月日の経過とともに事件の実態を知り、

公安調査庁長官・緒方なる者が関わっていたばかりか、悪名高い不動産ブローカー、詐欺師や暴力団までもがうごめいていたのです。

同胞の衝撃もさることながら、長い間の日本人支援者までもが、「これでも民主主義と権利擁護、友好親善を唱えてきた総連ですか？ 暴力団とどこが違うのですか？」と、失望を隠さなかったものです。許宗萬は本質的にカンペ（暴力団）と同じDNAを持っているのかも知れません。

さて、最高裁の判決は三月か四月、遅くとも五月迄には出るといいます。

中央会館売買取引の過程で詐欺された五億円は別にしても、総連も認めた朝銀破綻がらみの負債だけでも六二七億円になります。これを責任副議長はどのようにして埋め合わせようとするのでしょうか。この責任は全面的に彼が負わなくてはなりません。

総連中央会館は、総連同胞の血と汗の結晶であり私たちの共同資産です。それを金正日への忠誠心遊びと、自己の権力欲のための道具としてもてあそび、総連の財政を破綻・壊滅させた許宗萬の罪は、万死に値するものです。

昨今、総連中央や商工人、イルクンたちの間で囁かれているように、よしんば、最高裁が出すのではないかと言われる三五億円の和解提示であったとしても、それは許宗萬の「勝利」ではありません。彼は一体どのようにして三五億円も

の大金を作りだすのでしょうか？ そして、それは可能なことでしょうか？

当然だといえは当然なことですが、許宗萬は、「もうお金が出てきません。どうか助けてください」と親分の將軍さまに泣きついていられることとす。果たして、金正日は金を出してくるのでしょうか？ 海外にある四〇億ドルもの莫大な「隠し金」の一部でも送ってくれるでしょうか？ とんでもない話です。数百万人もの人々が飢え死ぬ時にも、眉ひとつ動かさなかった將軍さまではありませんか！

ただでさえ、「判決の結果次第では、今度は若い商人たちが一斉に立ち上がる準備をしている」との話が聞こえてきます。また、許宗萬の肝が冷えそうな話です。

許宗萬とはどんな人物で、犯した罪とは：

同胞のみなさん！

言うまでもなく、総連の会館、事務所、文化施設、朝信、学校等の資産は同胞の共同財産です。何人も同胞の承認なくして手をつけることは出来ません。しかるに総連の金庫番に就いた許宗萬は、傲慢無礼、またたくまに総連資産と財政を私物化していきます。

いわゆる「許宗萬体制」なるものが発足するのは、一九八六年九月の総連十四全大会からです。当時、総連内部で少ない物議を醸し出した「総連の基本大衆は商工人」だとす

りやがって」と、同窓生たちが話したといひます。

前中央幹部であったある人は、「奴のために俺の人生、めちゃくちゃにされたさ。俺も馬鹿だったよ。早く宗萬を追ひ出さなくちゃ」と、吐き捨てるように言ったとのこととす。

十年ほど前、同胞科学者たちの研究会が集会が箱根でもたれたとき。夜の交流会にドテラ姿で出てきた許宗萬が、横柄な振る舞いでマイクの前に立ち、ヤクザ道讃美の下演歌を節回しもよく、そして自慢げに唄う姿を見てすっかり幻滅したと語っていた、ある同胞科学者のことが思い出されます。

このような調子で国際局での仕事もし、商工人やサギ師、ヤクザ達との宴会を重ねてきた、「夜の文化」の優れた才能の持ち主であることは間違いないさそうとす。

ともあれ、彼は総連の金庫番として羽振りをきかせます。將軍さまのマルスムは絶対的なものです。二〇〇〇年の三月、金正日は「責任副議長が責任を持って組織展開していかなくてはなりません」との、「ありがたい」マルスムを与えました。

ですから、同胞と活動家にまったく信頼されなくても、商工人たちから「あいつは泥棒野郎（トジヨクノムセッキ）だ。すぐに首にせよ」と言われても、親亀が首を振らない以上その場に座り続け罪を重ねているのです。この論理でいくならば、私たちはどちらの亀からでもかまいません。まずは一人ずつ追い出すことから始めなくてはなりません。

る教示があり、続いて八六年九月、金正日のマルスム（編注：おことば）と続きました。簡単な話、それは許宗萬の副議長への抜擢と財政担当であり、金正日の「総連同胞収奪体制」の確立を意味するものでした。

そして許は、九三年に責任副議長になります。もちろん「親分」からの「厚い信任の賜物」です。彼にすると絶大なバックボーンを持ったことになり、実質総連のトップを射止めたわけだから、飛ぶ鳥を落とすような勢いで権勢を振ります。

この時期イルクンの中では、許宗萬が莫大な「献金」と「貢ぎ」の実績と、金正日接見の席での酒の飲みつ振りとおベッカ（阿附阿諂）から、お墨付きをもらったのだと囁かれたものでした。

少なくとも人の上に立つ者とは、人びとからおかたの信望を得られる品性の持ち主でなくてはなりません。

しかるに許宗萬なる人物は如何なるものでしょうか？ 彼は東京中高卒業後、朝青中央の専任として活動しますが、同級生や朝青時代の友人は、「出来もしないのに虚勢を張る、目立ちがり屋の男芸者みたいな人間だ」といいます。彼を評価する人は皆無といつても言い過ぎではありません。

東京中高同窓会の酒席での話ですが、「宗萬のやつ、朝銀は食いつぶし中央会館まで売り飛ばしやがって、同窓生の恥さらしだ」「何を食らっているのか知らねえが豚みたいに肥

許宗萬の「悪徳総合商社」は、

総連資産と同胞収奪の拠点だった

同胞のみなさん！

こんなことが許されていいのでしょうか！

金正日の独裁統治も許宗萬のそれもお金がすべてとすると、残念ながらどんなこともすんなりと理解できます。忠誠心も金で買います。ブリキのような勲章も今や一千万円ほどの「献金」で買えます。許宗萬のように総連の地位も金で取引します。いちばん早くこれに気づいた許は、その意味では大変「立派な男」です。そして本能的な臭覚の持ち主だといえましょう。

財政担当副議長になった許宗萬は、財政局の中に「経済部門」を統括する「財政委員会」という組織を作ります。許は朝信の人事権をはじめ朝銀を自らの体制へと直結させ、全国の朝信のトップを自分に「忠誠」を尽くす幹部でかためていきます。

このようにして、許は朝銀の首根っこを押さえ、総連の企業活動の総責任者（元締め）となります。パチンコ業と地上げを中心とする不動産業を展開していきます。また暴力団と組んでゴルフ場の開発などにも手をだします。

全盛期、彼の直轄パチンコ店は二〇店、大学や県本部の店を合わせると五〇店近くになりました。ほとんどが朝銀から

の融資を使うわけだから、何十億単位の金を右から左へと動かして店舗を増やしていきます。そして、こともあろうに朝大卒業生を奴隷のようにこき使い、最盛期には年間五〜六億円の純利益を出したといっています。

こうして、彼のおごりは頂点に達します。

ある同窓生のおごりを狙って出店させ、その後はズサンな経営と収奪で、閉店に追い込んだあと、涼しい顔ですまなかつたとも言わなかったといっています。こうなると、「愛国事業」も同志も友情もあつたものではありません。飢えたハイエナの部類です。

こともあろうに、朝鮮貿易の老舗である東明商事の朴日好社長の一七億円の運用資金を、許宗萬の腹心だった朝銀愛知の崔宗哲が無断で引き出したことに怒った朴氏は、許を裁判にかけます。ここから、「学習組」が表出したりしてマスコミが騒いだものでした。事の詰まり、朴社長がピョンヤンに呼ばれて手を打ちます。その後朴社長の実弟は、トントン拍子で総連中央の副議長に登りつめます。

ご承知のように、朝銀は在日同胞が立ち上げ、心を込めて育成してきた同胞の金融機関です。学校と共に朝銀の出帆と発展途上には、涙なくして語れない同胞たちの相互扶助の精神が宿っています。これを破綻させ踏みにじつたのも許宗萬です。

朝銀を許宗萬の「悪徳総合商社」が徹底的に利用、収奪し、

収奪と詐欺に会います。この事業を指揮したのも許宗萬でした。

合併に手を染めた同胞企業は、一時、二八〇社にも上りますが、途中で手を引いた大半の同胞企業がだまし盗られた設備や金額は、莫大なものでした。つまるところ合併は失敗し、本体まで傾き破産に追い込まれた同胞企業も少なくありません。

まもなく結審される「中央会館裁判」はさておき、今までに終えた裁判、そして今まだ進行中の裁判を合わせると、許宗萬は一〇〇以上の裁判を抱えています。

この事実、彼が如何に詐欺師や暴力団と付き合ってきたかの反証であり、どれだけ多くの同胞商工人を窮地に押しやったかを証明して余りあるものです。彼は英雄でしょうか？ それとも大罪人でしょうか。本当は私たちの手で裁かなくてはならない人間なのです。

朝銀を破綻に追いやった「悪徳総合商社」の社長が許宗萬でありました。

ともあれ、パチンコでの儲けや総連資産の「整理」等を通して、許が親分に貢いだ金は想像を超える莫大な金でした。日本の内閣調査室が調べたところによると、一九九〇年代初め時点で、総連が北に送った金は、年間一八〇〇億円から二〇〇〇億円だったというのだから驚くばかりです。累計するといったいどれだけの金額になることでしょう。

金正日に貢ぎあげて破綻させてしまいました。よく知られていて多くを語る必要ありませんが、その流れのいくつかを上げてみます。

○パチンコ業（インタナショナル企画）——この資金調達元は全国三八の朝信。一店舗一〇億円として二〇〇億以上がつぎ込まれたことになる。ずさんな経営と、北への献金のためその後、ほとんどが廃業。

○不動産、地上げ（プロスパー開発）——総連の資産や学校を担保に莫大な資金を朝銀や日本の不動産会社や金融機関から調達。有名な名古屋駅前。大阪吹田市江坂の地上げ等々。資金を裏社会からも引つ張ったりしてトラブルを起こす。

○ゴルフ場開発（滋賀県石部カントリー、山梨県大月西カントリー等々）——石部は京都朝信に一〇〇億円の負債を、大月西は東京朝銀に三五億円の負債を残した。京都朝信の負債は、その後の近畿朝銀破綻の原因にもなり、暴力団とのからみで血の雨が降っても不思議ではないほどのおぞましい事件となった。

以上は、ほんの一例にすぎません。数えきれないほどの「犯罪的」行為が繰り返された訳です。

もう一つどうしても、つけ加えたいことがあります。

愛国的商工人と同胞は、「献金」との美名のもとで繰り返された収奪はもとより、一九八五年のいわゆる「四・二四教示」以後、合併事業なるものによって同胞商工人たちは酷い

このようにして。金正日の顔色しかうかがわれない許宗萬体制の支配・悪行によって朝銀は破綻し、同胞の血と汗の結晶である総連の資産は消えていきました。

売り飛ばされたり担保に入っているウリハッキョの数、文化教育施設の多さは話にならず、残っている地方本部会館も、今は両手の指で数えられるほどだといっています。最近、兵庫県本部も移転したそうです。

こともあろうに、去る二月二十三日の新聞報道によると、千葉県がウリハッキョに出している補助金を見送り、「学校が仮差し押さえを受けていて、健全性が疑わしい」と、その見送りの理由にしたとのこと。すると千葉初中と同様にRCCに仮差し押さえされているウリハッキョは、全国にまだ一〇校以上あるわけだから、それへの影響はないと言えるのでしょうか。このような「口実」を与えたのも、元はと言えば許宗萬です。

今一度明確にしておきたいと思っています。

許宗萬体制に組み込まれて歩んできた総連事業の悪夢のような数十年、わけもなく金正日独裁の収奪の対象になった私たち同胞の辛苦と、艱難を思うと胸が痛みます。同時に、金独裁の忠実な下手人である許宗萬に、人間としての尊厳を踏みにじられ利用され財産を奪われてきたことを考えると、こみあげる憤りを抑えることが出来ません。

私たちは、ほんとうの総連、在日同胞の権利擁護団体とし

ての真実の総連を取り戻さなくてはなりません。

同胞のみなさん！

総連活動家のみなさん！

中東から起こった革命の嵐は、やがて一党独裁の中国と一人独裁のビョンヤンを巻き込むことでしょう。ジャスミンの花はビョンヤンにも香しく咲かなくてはなりません。リビアの独裁者・カダフィに抗った側近たちや軍人の勇気あるたたかいは実に示唆的です。

決して遅くはありません。今こそ目を覚まそうではありません

二〇一一年三月八日 (文・責任・崔)

朝鮮総連中央本部 売却の経緯

朝鮮総連の中央本部が差し押さえられ売却されるという事態が二〇〇七年から続いている。最高裁判決（今年の六月以降とみる）の結果しだいでは、そうなる可能性が高い。『光射せ！』の読者にも関心が高いのでこれまでの過程をおもに新聞報道によつてまとめた。（『光射せ！』編集部）

せんか。

「独裁はもうごめん」「許宗萬を追い出そう」の合言葉のもと、私たち総連イルクンたちは、真実、同胞の忠僕にならなくてはなりません。私たちと同胞のよりどころである総連を改革、再生させましょう。

あらゆる妨害にもめげず、弛みなくたたかいの隊列を組んできた先輩たちに敬意を表します。そしてまた、若い商人たちの隊列が整いつつあることに限りない励みをうけつつ、第三報の発信とします。カムサハムニダ。

二〇〇二年十二月二十九日

破綻した朝鮮銀東京信用組合などが、事業を整理回収機構（RCC）へ譲渡

二〇〇五年十一月二十二日

RCC、朝鮮総連へ六二七億円の債務返済を求め東京地裁に提訴

RCCは、破綻した一六の朝鮮銀信用組合から引き継いだ不良債権のうち約六二八億円が実質的に朝鮮総連向けの貸付金だったとして、朝鮮総連に返済を求める裁判を東京地裁に起こす。

二〇〇七年六月十二日

総連中央本部の登記が変更されていたことが判明
総連中央本部の土地建物の登記が、六月八日付で「合資会社朝鮮中央会館管理会」から「ハーベスト投資顧問株式会社」（代表取締役・緒方重威元公安調査庁長官）へ変更されていたことが判明。

翌六月十三日、東京地検特捜部は、電磁的公正証書原本不実記録等の容疑で「ハーベスト投資顧問株式会社」、緒方元長官及び朝鮮総連の代理人を務める土屋公献弁護士（自宅を家宅搜索、両者から任意の事情聴取を行う）。

二〇〇七年六月十八日

東京地裁、朝鮮総連に六二七億円の債務返済を命じる
東京地方裁判所は、RCCが朝鮮総連に約六二八億円の返済を求めた裁判で、朝鮮総連側全面敗訴の判決を下した。土屋弁護士は六月二十日、同裁判に対する控訴を断念すると発表。

また、緒方元長官及び土屋公献弁護士は同十八日、朝鮮総連本部の敷地及び建物の登記を「合資会社朝鮮中央会館管理会」に戻したことを発表。

二〇〇七年六月二十八日

東京地検特捜部が詐欺容疑で緒方元長官ら三人を逮捕

東京地検特捜部は、詐欺容疑で緒方元長官ら三人を逮捕し、七月十八日に起訴した。二〇〇九年七月十六日、東京地方裁判所は、資金と不動産を詐取する意思があったとして、緒方被告に懲役二年十月執行猶予五年の判決を言い渡した。被告、検察側ともに判決を不服として控訴、現在も東京高裁において控訴審係争中。

二〇〇七年七月十三日

RCC、総連本部の強制執行を求め東京地裁に提訴
RCCは、朝鮮総連の約六二七億円に上る債務返済をめぐり、総連中央本部（登記上名義人は「合資会社朝鮮中央会館管理会」）の強制執行（競売）ができるよう、東京地裁に執行文を求める裁判を起こした。

九月二十一日に行われた第一回口頭弁論で合資会社側は「朝鮮総連と合資会社は一体ではない。不動産の名義通り所有している」と主張し、RCCは「登記は便宜上のもので、実質的な所有者は朝鮮総連」と主張。

二〇〇八年十一月十七日

東京地裁、RCC側の請求を棄却。総連本部の強制執行を認めず

東京地裁は、RCCが総連中央本部の強制執行ができるよ

「光射せ！」用字・用語について編集部からのお願い

『光射せ！』は、多くの読者に読んでもらうことを前提にした雑誌です。親しみやすく読みやすくするために、用字・用語などを編集し統一しています。この処理をコンピュータで一括置換しています。以下、その一例です。

【一括置換の例】

1、基本的に縦組み中心ですので、洋数字はすべて漢数字に変換します。

A. 西暦、数値単位には「十」を使用しません。

10m → 一〇メートル
11kg → 一一キログラム
2011年 → 二〇一一年

B. その他は「十」を使用

10年 → 十年、10月 → 十月、
10日 → 十日、10章 → 十章、
10世紀 → 十世紀

2、漢字を開く（ひらがなにします）。

①引用文、固有名詞などは変換しません。

②旧漢字は現代漢字にします。

③意味のない漢字や当て字は、ひらがなにします。

～されて来た → ～されてきた
なにを持って → なにをもって
と言うように → というように
して行く → していく
して見たが → してみたが
した上で → したうえで

④雑誌・新聞などで使用されているひらがなに変換します。以下その一例です。

行う、共に、又、故(ゆえ)、然る、至る、達(たち)、類(たぐい)、頃、程(ほど)、毎(ごと)、直(なお)、全く、一層、無論、目指、凡ゆる、予め、嘗て、且つ、些か、幾ら、如何に、面白い、各々、色々、概ね、只、沢山、迄、早速などは、すべてひらがなとします。

3、「?」、「!」のあとは、全角の空白を入れます。

なに? どうした → なに? どうした

4、欧文も全角（和文用欧文）に変換。略語類は和文用欧文に

ODA、IMF → ODA、IMF

欧文本文はそのまま

Mamorukai Hikarisase

なかには変換ミスが起こることがありますが、極力ミスのないように心がけてまいりますのでご了承ください。

この編集方針にご意見があれば、「光射せ！」編集部にご連絡ください。

担当者：窪田和夫

二〇一〇年十二月二十四日

東京高裁、朝鮮総連控訴を棄却。二

審も総連中央本部登記の移転を命令

東京高裁は、RCCが「総連中央本

部の土地建物の実質所有者は朝鮮総連

であるとして、朝鮮総連の代表者に

名義を書き換えることを求めた裁判の

控訴審判決で、一審判決を支持し、朝

鮮総連中央本部の土地・建物の名義を

「合資会社朝鮮中央会館管理会」から朝

鮮総連の代表者に変えるよう命じた。

※朝鮮総連側は現在、最高裁に上告

中で、判決が確定すれば強制執行可能

二〇一一年二月十八日

東京地裁、総連中央本部の仮差し押

さえを認める RCCが保全措置

東京地裁は、RCCによる朝鮮総連

中央本部の土地建物の仮差し押さえ

（強制執行に備え債務者の財産を保全

する手続き）を認めた。これを受けて

RCCは、二十一日に朝鮮総連中央本

部の土地建物の仮差し押さえを行った。

う執行文を求めた裁判でRCCの請求を棄却する判決を言い渡した。

裁判では、団体名義で土地建物を所有権登記できない任意団体である朝鮮総連から債権回収する際に、所有者である第三者の合資会社「朝鮮中央会館管理会」に対して差し押さえることができるかが争点となった。裁判長は、「第三者名義の不動産に競売が行われると、登記が権利関係を正しく示さない状態を許すことになる」としてRCC側の主張を退けた。RCCは控訴。

なお、RCCは、この裁判のほか「総連中央本部の土地建物の実質所有者は朝鮮総連である」として、朝鮮総連中央本部の名義を「朝鮮総連の代表者（徐萬述議長）」に書き換えることを求めた別の裁判を起こしている。（提訴日時は確認できず）

二〇〇九年三月二十六日

東京地裁、総連中央本部登記の移転を命令

東京地裁は、RCCが「総連中央本部の土地建物の実質所有者は朝鮮総連である」として、朝鮮総連の代表者に名義を書き換えることを求めた裁判で、RCC側の主張を認め、登記上の名義人「合資会社朝鮮中央会館管理会」に対し登記の移転を命じた。朝鮮総連側は判決を不服として控訴。

判決理由の中で裁判長は「朝鮮総連は当初から本部の使用

を継続し、合資会社に使用料などの対価を支払った形跡がなく、朝鮮総連の代表者が本部の処分権限を持っていた」と指摘。「実質的な帰属主体は合資会社ではなく朝鮮総連にある」とした上で、「本部を朝鮮総連の代表者名義にすれば、RCCは強制執行の申し立てができる」と述べた。

二〇〇九年四月十五日

東京高裁、機構側の請求を棄却。二審も総連中央本部の強制執行を認めず

東京高裁は、RCCが総連中央本部の強制執行ができるよう執行文を求めた裁判の控訴審判決で、一審判決を支持しRCC側の請求を棄却。RCCは最高裁に上告。

二〇一〇年六月二十九日

最高裁、RCCの敗訴が確定。総連中央本部の強制執行を認めず

最高裁は、RCCが総連中央本部の強制執行ができるよう執行文を求めた裁判で、「貸付金を回収する目的での差し押さえは現時点では不可能」としてRCCの訴えを棄却し、RCCの敗訴が確定した。

一方で最高裁は「名義は違っても施設が実質的に朝鮮総連の資産であることを認める裁判所の判決があれば、差し押さえも可能」との意見も示した。